

増設多核種除去設備 吸着塔用 pHスキッドからの 堰内への漏えい事象について

2017年7月27日

TEPCO

東京電力ホールディングス株式会社

©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社

概要及び時系列

TEPCO

■概要

- 増設多核種除去設備 B系統吸着塔用 pHスキッドからの漏えいを確認。
- 漏えいした水は同建屋内の堰内に留まっており、建屋外への漏えいには至っていない

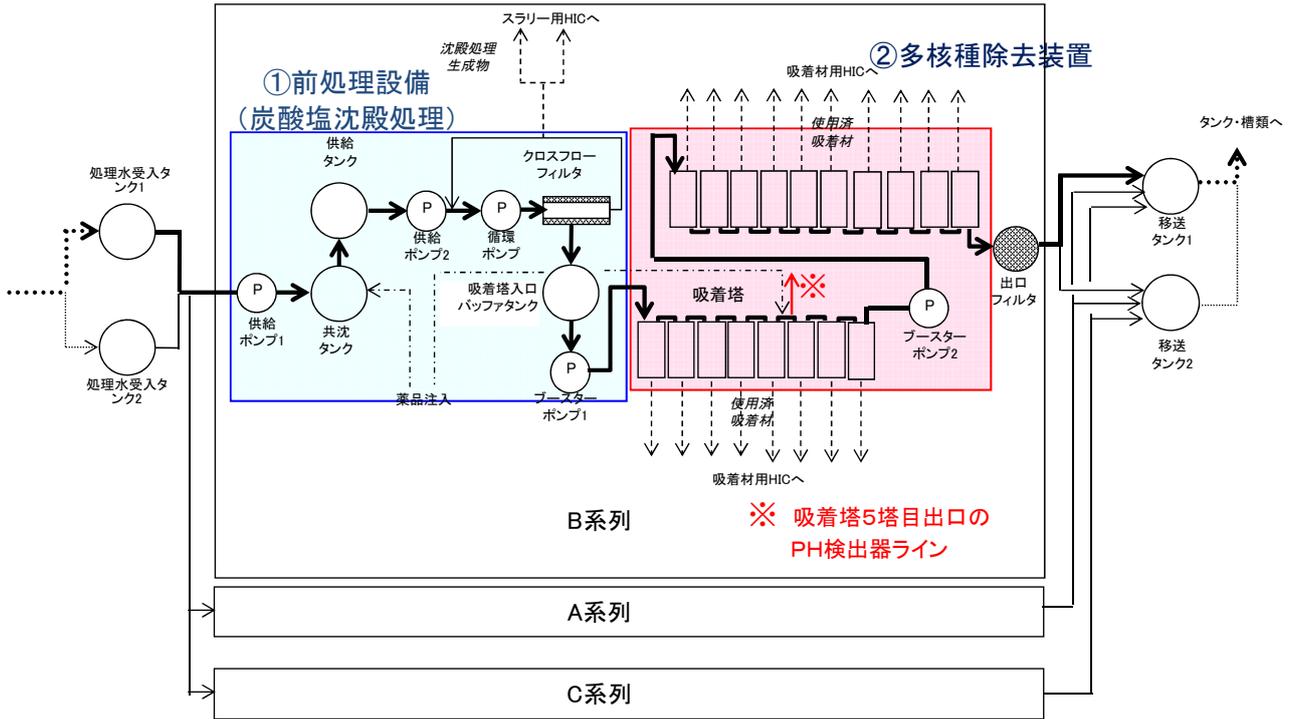
■時系列

【7/21】

- 00時52分頃 増設多核種除去設備 B系において漏えい検知器が動作し警報発報
- 00時55分 増設ALPS (B) 運転停止。
- 01時30分 当社社員にて検知器周辺水溜まりを確認。
漏えい箇所を隔離し、漏えいの停止を確認。
- 01時38分 検知器周辺で1m×5m×1mmの水溜まりを確認 (漏えい量: 約5L)
- 02時03分 サンプリング配管のドレンラインにピンホール状の穴
(直径約2mm) があることを確認。
- 03時39分 漏えい部の線量確認 (BG同等 (2μSv/h))
- 11時08分 漏えい水の拭き取り完了。

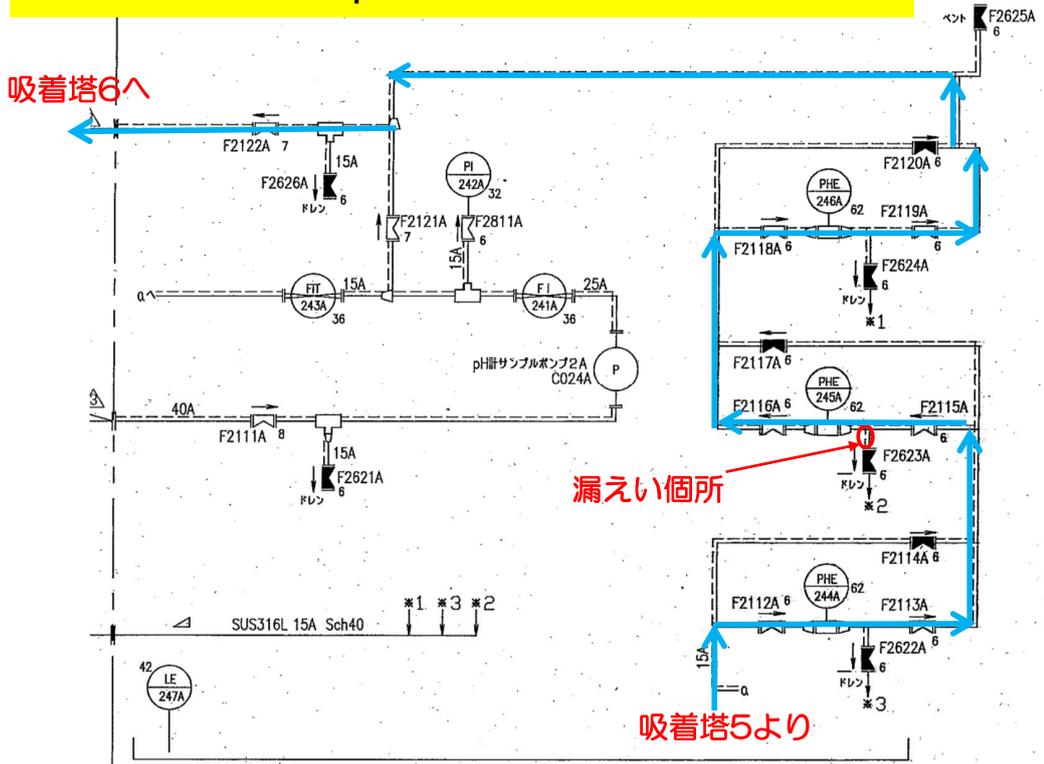
©Tokyo Electric Power Company Holdings, Inc. All Rights Reserved.

無断複製・転載禁止 東京電力ホールディングス株式会社



漏えい発生箇所 (2)

吸着塔5塔出口pH検出スキッド構成図



- 配管仕様
材質：炭素鋼
外径：21.7mm
厚さ：2.8mm
- 漏えい水放射能濃度
(参考:当該部近傍水の6/1測定値)
 - ・ Cs-134
2.2×10² Bq/L
 - ・ Cs-137
1.5×10³ Bq/L
 - ・ Sr90
1.8×10² Bq/L

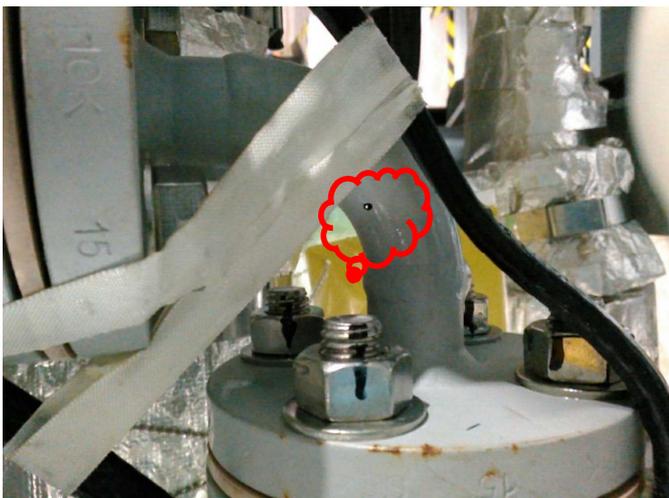
← 水の流れ



吸着塔用pHスキッド全景



漏えい箇所



漏えい箇所拡大

■ 漏えい原因調査

当該配管のスプールを取り外し、漏えい箇所の詳細調査を実施。

■ 増設ALPS B系統の処理運転について

当該漏えい箇所は、pH検出器点検時の水抜き用ドレン配管であり、吸着塔5塔出口pH検出計器は3基設置しており、2基運用、1基点検を可能とした設備構成になっている。

よって、当該漏えい箇所を含めたpH計を隔離し、バイパスすることでB系統運転が可能な状態となるため、【平成29年7月24日 10時13分】より処理運転を再開した。

なお、隔離した範囲は水を抜き、さらに漏えい箇所には『自己融着テープ』にて仮補修を実施した。

参考：現在の運転状態

